

支援学級「リズム漢字」を使っでの学習

～「全部覚えたで！」～

大阪 片上 寿子

文字を覚えるのが苦手なAさん（6年男子）は、カタカナも、ひらがなもすらすらとは書けません。

漢字は、既製の漢字学習ノートなどで繰り返し練習はしていましたが、なかなか定着していませんでした。

昨年、リズム漢字を使って、1年生からの漢字の学習を進めています。早口言葉のような最近の流行歌もしっかり覚えて歌っていたので、音声記憶が比較的よいことはわかっていました。なので、初めから読みがなのついていないプリントを使ってスタートしました。

一行ずつ連れ読みし、読んでいる場所を私が指でなぞり、どこを読んでいるか意識づけるようにしました。・しつこく繰り返さず、一日一回。・覚えることを強制しない。というスタンスで、取り組みました。「むずかしい」「苦手」と思われると、やる気が一気になくなるからです。そして、リズムのよさと、「できる」という安心感からと思います。この学習を嫌がることはなく、読む方は数週間で覚え、得意気でした。

次は苦手な「書き」です。毎日1行（7文字）を見て書く。そして、すぐテスト。書けたら合格。その場の短記憶で書けているものもあるので、定着とは言えないのですが、「合格した」と本人は思っています。そのことが自信となり、次からその漢字を書くことへの抵抗がずいぶん減ってきたように思います。こうして、1年生の漢字の読み書きを終え、2年生のリズム漢字に入りました。

むずかしい言葉も文字数も多いので、1日に全部は読まず、3つのブロックに分けて、1ブロックのみにしました。「直線」「売買」など熟語の言葉を覚える機会になったことも、リズム漢字を使ってよかった点です。何ヶ月かして全部が読めるようになったときは、とても満足気で、「読んだらか？」とたのみもしないのに、他の支援学級の先生のところに行って、聞かせてあげていました。

でも、歌を覚えるのといっしょで、そらんじているだけなのでは、という疑問もできます。そこで、一文字ごとのカードをつくり、バラバラにした7枚を正しく並べかえる学習をしました。例えば「音」「作」「活」「工」「科」「楽」「生」のカードを「工作音楽生活科」となるべのです。

果たして、予想通り耳をたよりに覚えているので、1つ1つの漢字の読み対応して覚えていない字が、3分の1程度ありました。しかし、逆に言えば、3分の2は、文字と言葉が一致していたのです。このことは、繰り返しプリントを見ながら唱えてきたことが、彼にとって有効な学習方法だったことを示していると思います。何より、「全部読める」と本人が思い、そのことが、自信と次の課題へのやる気に結びついていることが、大きな成果だと思えます。

反復と達成感が大事なのは、支援学級の子もたちも同じです。「できる。」（多少思いこみでも）という気持ちを大切にしながら、「欲張りすぎない」「スモールステップ」を今後も心がけていきたいと思っています。